

核廃絶 被爆者の足跡評価



核兵器廃絶の願いを込めて開かれた被爆54周年の平和記念式典。子ども代表の「平和への誓い」の後、約1500羽ハトが一斉に放たれた（6日午前8時30分、広島市中区の平和記念公園）

広島被爆54周年祈念式 秋葉市長が平和宣言

木々の緑を洗った雨が上がり、ヒロシマは六日朝、被爆五十四周年を迎えた。広島市中区の平和記念公園での原爆死没者慰霊式・平和祈念式（平和記念式典）には、被爆者や遺族など五万人（広島市発表）が参列した。秋葉忠利市長は平和宣言で、被爆者の足跡を高く評価し、「核兵器を廃絶する強い意志」を若い世代が継承するよう呼び掛けた。

午前八時、秋葉市長が遺族代表二人と原爆死没者名簿を原爆慰霊碑に奉納した。この一年間に亡くなったたり、死亡が確認された被爆者は五千七十一人。名簿登載者の総数は二十一万二千百十六人。死没者名簿冊数は一年間に二冊増えて七十三冊になった。広島市内に住む被爆者の平均年齢は六八・七歳。老いる被爆者は、核兵器廃絶への道のりが依然険しいことに、いらだちを隠せない。

平野博昭市議会議長が式辞を述べた後、遺族代表、被爆者代表、昨年に続いて参列した小淵恵三首相、渡部恒三衆院副議長、宮下創平厚相、藤田雄山広島知事、松山俊宏県議会議長らが慰霊碑に献花した。原爆が投下された午前八時十五分。遺族代表と子ども代表が「平和の鐘」を打ち鳴らし、参列者全員が黙とうをささげた。続いて秋葉市長が平和宣言を読み上げた。

「多くの被爆者が世界のために残した足跡を顧みるとき、私たちは感謝の気持ちを表さずにはいられません」。宣言初の「です、ます」調で語りかける。被爆者の足跡として、「原爆がもたらした絶望を乗り越えて人間であり続けた事実」と、核兵器の三度目の使用を阻止したことを挙げた。さらに、復讐や敵対でなく人類全体の

公正と信義に依拠する道を選び、日本国憲法に凝縮された新しい世界の考え方を提示した」と続けた。

若い世代に対しては、過ちを繰り返さぬと誓った被爆者の意志の力で、皆さんの未来への可能性が残された」と強調。「核兵器は絶対悪で、廃絶に向け強い意志を持ってもらいたい」と呼び掛けた。政府には、「世界各国政府を説得し、世界的な核兵器廃絶への意志の形成を」と求めた。

この後、子ども代表の小学六年生二人が「広島の人々の心を学び、語り継ぎ、一人一人が輝き豊かに生きる社会をつくるよう、世界の多くの友達とともに努力する」と、平和への誓いを読んだ。

続いて小淵首相は、政府が提唱した「核不拡散・核軍縮に関する東京フォーラム」の報告書を踏まえ、「核のない世界を実現するため、積極的な役割を果たすことが被爆国の使命」と表明。「被爆者への援護施策の推進に向け、誠心誠意努める」と述べた。